



令和8年3月19日
博物館・美術館 学芸課
担当者 野中
内線：3717 電話：0952-24-3947（直通）
E-mail:hakubi@pref.saga.lg.jp

OKADA-ROOM Vol.37 の展示がスタートしました 岡田三郎助と日本近代洋画の名品ー続・コレクションの道程ー

佐賀県立美術館は開館以来、明治から昭和初期にかけて活躍した佐賀県出身の日本近代洋画の巨匠^{おかださぶろうすけ}岡田三郎助（1869～1939）の画業と人物を紹介しています。

当館の岡田三郎助のコレクション（収蔵品）は、洋画の代表作、名作はもちろん、日本画、素描（デッサン）、版画、また彫刻や工芸品、さらに愛用の品等幅広く、それらは現在、合計250点を数えるに至っています。

今回の Vol.37の展示は、Vol.36に引き続き岡田三郎助の名品とともに、彼と同時代に生き、活躍した画家たちの作品を展示します。洋画団体「白馬会」を創設し、岡田とともに明治の洋画壇に新風を吹き込んだ黒田清輝、岡田と並び洋画壇の頂点に立ち、ともに東京美術学校で教鞭を執った藤島武二、そして次代を担う新星と目されながら、若くして生涯を閉じた天才画家、青木繁。彼らの作品を通して、日本近代洋画の輝かしい歩みをたどるとともに、収蔵についてのエピソードも交えて、当館のコレクションをより深く楽しんでいただければと思います。ぜひご覧ください。

- 1 会 期 令和8年3月18日（水曜日）～6月28日（日曜日）
- 2 開 館 時 間 9時30分～18時
毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
- 3 休 館 日 ※令和8年5月5日（月曜日・祝日）は開館、5月7日（木曜日）は休館。
- 4 会 場 佐賀県立美術館 OKADA-ROOM（佐賀市城内1丁目15-23）
- 5 観 覧 料 無料

岡田三郎助と日本近代洋画の名品ー続・コレクションの道程ー



画家にとっての理想郷

岡田三郎助《丹霞郷》1933（昭和8）個人蔵

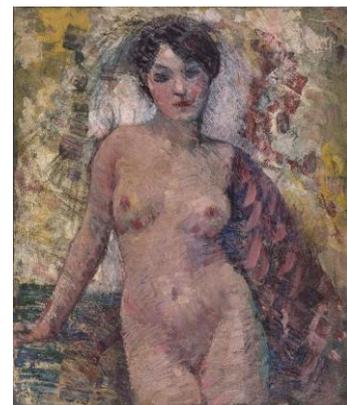
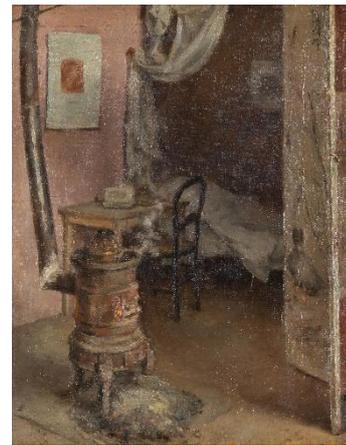
帰ってきた「まぼろし」の名画

岡田三郎助《裸婦》 1935（昭和10）
佐賀県重要文化財



師の感性と画風を受け継ぐ

ラファエル・コラン《日だまり（くつろぎ）》
1896（明治29）



師であり、友であり、またライバルでもあった

（右上）黒田清輝《画室内》1889（明治22）
（右下）藤島武二《裸婦》大正時代



画面に湛えるは、若き画家の夢と哀情 青木繁《朝日》1910（明治43）
佐賀県立小城高等学校同窓会 黄城会
小城市重要文化財
佐賀県重要文化財

No.	作者名	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)	所蔵等
1	岡田三郎助	薔薇	制作年 不詳	油彩・紙	15.3 ×11.1	佐賀県立美術館
2	岡田三郎助	矢調べ	1893 (明治26)	油彩・ カンヴァス	72.5 ×105.0	佐賀県立美術館 佐賀県重要文化財
3	岡田三郎助	花野	1917 (大正6)	油彩・ カンヴァス	65.2 ×90.8	佐賀県立美術館 佐賀県重要文化財
4	岡田三郎助	自画像	1899 (明治32)	油彩・ カンヴァス	48.0 ×37.0	佐賀県立美術館
5	岡田三郎助	ぬいとり	1914 (大正3)	油彩・ カンヴァス	72.7 ×42.4	佐賀県立美術館
6	岡田三郎助	富士山 (三保にて)	1920 (大正9)	油彩・ カンヴァス	137.3 ×197.5	佐賀県立美術館
7	岡田三郎助	裸婦	1935 (昭和10)	油彩・ カンヴァス	99.8 ×65.5	佐賀県立美術館 佐賀県重要文化財
8	岡田三郎助	丹霞郷	1933 (昭和8)	油彩・ カンヴァス	53.0 ×65.1	個人蔵
9	ラファエル・ コラン	日だまり (くつろぎ)	1896 (明治29)	油彩・ カンヴァス	60.6 ×81.5	佐賀県立美術館
10	黒田清輝	画室内	1889 (明治22)	油彩・ カンヴァス	40.5 ×32.0	佐賀県立美術館
11	藤島武二	裸婦	大正時代	油彩・ カンヴァス	60.4 ×50.0	佐賀県立美術館
12	青木 繁	朝日	1910 (明治43)	油彩・ カンヴァス	72.5 ×115.0	佐賀県立小城高等 学校同窓会 黄城会 小城市重要文化財 佐賀県重要文化財

おかださぶろうすけ
岡田三郎助

1869(明治2)～1939(昭和14)

1869年(明治2年)、佐賀県佐賀町(現佐賀市)に旧佐賀藩士石尾孝基の三男として生まれる。幼時に油絵に関心を持ち、のち洋画を学ぶ。黒田清輝、久米桂一郎らとともに洋画団体「白馬会」を創立、東京美術学校の西洋画科の助教授に就任する。また文部省の留学生としてフランスに渡り、画家ラファエル・コランから穏やかで明るい色調の作風を学んだ。帰国後は東京美術学校教授として、官展の指導者として、後進の育成に力を注ぎ、1937年(昭和12年)、第1回文化勲章を受章した。

繊細優美な婦人像を多く描き「美人画の岡田」と呼ばれた。



岡田三郎助アトリエ・女子洋画研究所 (県立博物館東側)

岡田三郎助は、1908年(明治41年)から1939年(昭和14年)まで、現在の東京都渋谷区恵比寿で暮らし、制作に打ち込みました。自宅に隣接したアトリエは木造の洋風建築で、岡田の没後は洋画家の辻永つしひさしが譲り受けました。辻家の人々により長年守られた後、佐賀県立博物館東隣に移築・復原され、2018年度から一般公開されています。2022年には、国の登録有形文化財に登録されました。

このアトリエで岡田の名作の数々が誕生し、またその一室は、彼が主宰した画塾「女子洋画研究所」の教室として使用され、数多の女性画家たちが巣立ちました。

御来館の際は、ぜひアトリエもあわせて御見学ください。